

評価報告概要表

■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成 29 年 2 月 20 日 (月)

■福祉サービス事業者情報

名 称	はあとアカデミー山口	種 別	就労移行支援・就労継続支援B型
代表者氏名	福田 通寛	開設年月日	平成26年8月
設置者	社会福祉法人 青藍会	定員(利用人数)	20名
所在地	山口市吉敷中東一丁目2-6		
電話番号	083-941-5233	FAX番号	083-933-6030
ホームページアドレス	http://www.seirankai.or.jp		

■総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)
<p>◇特に評価の高い点</p> <p>1)常時携帯出来る職員ハンドブックを法人で作成していることは、組織の理念等を職員に常に自覚させ、仕事に対する見直しや確認を促すことに役立つと思われ、高く評価できる。</p> <p>2)はあとカフェを月1回開催し、地域の方々に参加していただいたり、また地域の方々との勉強会や地域の意見やニーズの把握を行うなど、地域交流、地域貢献への意識は高いものがある。</p> <p>3)利用者の立場に立ち、利用者の思いを汲んで、利用者支援として日々のプログラムにパソコン、公文学習、スポーツ、農園作業などを取り入れ、自己選択できるようにしている。また、難聴の利用者とのコミュニケーション支援として、職員の手話奉仕員資格取得に取り組んだり、利用者のプログラムにも手話講座を取り入れ、利用者間でもコミュニケーションがとれるよう取り組むなど、利用者支援に積極的である。</p> <p>4)昼食の無料提供の取組は、他ではなかなか実施できないことと思われ、障害者福祉への強い意欲を感じさせられる。</p> <p>5)今後も計画的に第三者評価を受審され、福祉サービスの質の向上に積極的、意欲的に取り組まれるよう期待する。</p> <p>◇改善を求められる点</p> <p>1)中長期計画を策定し、それにより将来を展望した障害者福祉に取り組まれることを期待したい。</p> <p>2)職員会議、ケース会議等の種々の会議が設定されておらず、支援内容の評価、見直しなどは朝礼や夕方のミーティングなどで済まされていると懸念する。目的ごとに会議を設定し、会議の運営、内容の記録等を適切に行うよう努力されたい。</p> <p>3)ケース記録、各種会議録、課題検討の記録など、記録の重要性を再確認し、利用者支援に関する様々な記録をきちんと残すことに自覚的に取り組んでいただきたい。</p> <p>4)利用者満足度については、アンケートの実施などにより利用者の意向を把握し、事業に反映する仕組みを構築されたい。</p> <p>5)昼食場所やトイレ等の生活環境の改善にも、利用者の立場に立った取組をお願いする。</p> <p>6)ケース記録を始めとした利用者に関する個人情報や重要書類は、施錠できる保管庫等で保管されたい。</p> <p>7)安全への取組として、外から事業所へ戻った時や食事前の手洗い、手指消毒の励行。</p>

■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

<p>平成26年8月より開設し、職員なりに利用者様へ「より良いサービスを提供しよう」と試行錯誤しながら事業所としてのカタチを作ってまいりました。</p> <p>今回、初めて第三者評価を受けさせていただき、沢山の事が勉強になり、また沢山の課題もみえてきました。障害者就労支援施設としてどのような方向に向かっていけばよいのか？を、職員一同、再確認できたように思います。</p> <p>今回いただいた評価に関しては、事業所として結果を真摯に受け止め、改善を早急に行い、より利用者視点にたったサービスの質の向上をはかっていきたいと思っております。</p>

評価報告概要表

■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	2	b	4	c	3	Na
<p>1)理念や職員心得などを掲載した組織独自の職員ハンドブックを作成し、全職員に配布し、それを以って理念を毎日の朝礼で唱和するなど、職員への周知を図る努力をしている。今後は、福祉サービスの利用主体である利用者・保護者への周知にも努力されたい。</p> <p>2)作業場所である農園までのアクセスを改善するために、来年度には出張所の設置を計画するなど、利用者の作業環境の整備に積極的である。今後とも、そうした利用者の立場に立った支援に意欲をもって取り組まされたい。</p> <p>3)開所後、2年半の事業所である。今こそ中長期事業計画をきちんと策定され、将来に亘る着実な障害者福祉事業運営を展望されたい。</p>							

II 組織の運営管理	a	7	b	10	c	1	Na
<p>1)管理者は職員が自由に意見を出し合える職場環境作りに努力し、また、職員の外部研修への参加を積極的に勧めるなど、リーダーシップを発揮している。しかしながら、管理者の役割や責任、障害者福祉に取り組む姿勢等の明示が不十分であるので、広報誌等で文書化して表明されたい。そのことは利用者・保護者・職員との信頼関係の構築のために欠かせない。</p> <p>2)職員の伝達研修の記録が確認できなかった。伝達研修の記録の重要性を認識し、作成、共有されたい。</p> <p>3)実習生受入れマニュアルの策定など、受入れ体制を整備し、将来の専門職の研修・育成に取り組まされたい。</p> <p>4)地域住民参加の勉強会や事業成果発表会、また災害時の地域連携など、地域交流、地域貢献への意識は高く評価できる。</p> <p>5)法人本部の公認会計士によるチェック体制は整備されているが、外部監査は受けていない。今後の課題である。</p>							

III 適切な福祉サービスの実施	a	10	b	6	c	2	Na
<p>1)利用者満足への取組は、開設当初、工賃支給がなかった状況を見直して、はあと農園との委託契約で就労継続支援B型事業を立ち上げたことや、昼食を持って来られなかった利用者がいたことから給食の無料提供を実施するなど、積極的に取り組んでおり高く評価できる。</p> <p>2)また、アセスメントは適切になされ、それに基づく個々の福祉サービス実施計画の策定、見直しも組織的になされている。</p> <p>3)しかしながら、利用者の権利擁護に関する規程、マニュアル等の整備が不十分である。利用者のプライバシー保護では、ケース記録や個人情報等の書類の保管棚が利用者が自由に入出できる場所にあり、施錠もされていなかった。至急対応が求められる。</p> <p>4)福祉サービス提供の基本となる支援の標準的な実施方法の策定が確認できなかった。</p> <p>5)利用者へのサービス実施状況のケース記録としての整備が不十分である。記録は将来的にも重要なものなので徹底されたい。</p> <p>6)外から帰った時や食事前などに、感染予防の基本である手洗い、手指消毒がされていない。改善されたい。</p>							

IV 良質な個別サービスの実施	a	8	b	10	c	0	Na	4
<p>1)難聴の利用者のために職員の手話奉仕員資格取得に取り組んだり、利用者のプログラムに手話講座を取り入れて、利用者間でもコミュニケーションがとれるようにするなどの支援を行っている。また、利用者のエンパワメントを高めるために、公文学習やSST(ソーシャルスキルトレーニング)、農園作業、また外部講師を招いての交通マナー教室開催などに取り組んでいることは、高く評価できる。</p> <p>2)利用者の特性や状態、希望や意向等に応じて就労移行支援や就労継続支援に積極的に取り組んでいる。今後も利用者主体でその希望や特性に応じた質の高い支援を期待する。</p> <p>3)成年後見制度など利用者の権利擁護に関する職員の意識啓発にも積極的に取り組まされたい。</p> <p>4)家族との話し合いの場を持つたり、家族も参加できる行事等を定期的実施していただきたい。そのことが家族の安心と信頼につながるものと考えられる。</p> <p>5)食事場所やトイレ等の生活環境については改善、あるいは工夫、配慮の余地があると判断する。昼食場所はテーブルクロスや壁面の装飾などの工夫により食事を楽しめる雰囲気作りをお願いする。トイレに関しては、ビル内の他の事業所との関係もあり難しい面もあるが、障害者支援に携わる者としてその改善を意識し、機会があれば改善に取り組まされたい。</p>								